

慶應義塾維持会



Newsletter

2017年9月
No.10



奨学生から、感謝を込めて。

慶應義塾維持会をご支援いただきまして心より感謝申し上げます。
2017年度の維持会奨学生として採用された塾生から、
感謝の気持ちをお届けします。

懇話会開催

2017年7月6日(木)三田キャンパスにおいて、
「慶應義塾維持会 懇話会」を開催いたしました。
懇話会は、終始和やかな懇談の場となりました。



岩沙弘道維持会会長
からの挨拶。

「塾生がどんなことに関心があり、学んでいるのか、遠慮なく、若さ溢れるお話を聞かせて欲しい。皆さんが充実した日々を過ごしていること。変化の激しいこの時代にあって、志と気概をもって未来の先導者になってもらうことを維持会として望んでいる。」とのお挨拶をいただきました。



奨学生の代表者から
維持会への感謝の言葉が
述べられました。

「人生経験豊富な大先輩から、今後の自分の人生の選択において非常に有意義なお話をさせていただきました。頂いたアドバイスを胸に刻んで、日々の学生生活や課外活動に全力で取り組んでいきたいと思えます。」

(岡山県出身 薬学部5年)



維持会奨学生インタビュー



山形県出身
薬学部4年

慶應義塾大学は、常に自分に新しい風を吹き込んでくれる最高の環境です。

Q 慶應義塾の良いところは？

幅広い分野で活躍なさっている先生方と、志が高く切磋琢磨し合える仲間がいるという点です。塾生としての誇りを持ち、夢に向かって努力することを迷わない、芯の通った信頼できる学友に恵まれ、とても良い刺激となっています。また慶應義塾には、サークルや部活動を通して他学部の人と接点を持てることや、医薬看三学部合同授業を通して医療系他学部の意見を聞く機会があるという、総合大学ならではの強みもあり、常に自分に新しい風を吹き込んでくれる最高の環境です。

Q 今後、学生生活でチャレンジしたいことは？

学年が上がるにつれ、授業内容はますます専門的なものとなり、1~3学年次に学んだ独立していると思っていた知識がどんどん結びついてきて、すべての科目が重要なプロセスだったということがわかり、勉強に対するモチベーションがますます上がりました。今年度は来年の実務実習に向けてCBTやOSCEの試験もあるため、これまでの学習の総仕上げをするとともに、実務に必要な、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、リスクマネジメント能力などを身に付けられるよう、普段の学生生活でも意識していきたいです。

Q 卒業後の進路、将来の夢は？

医療の発展や高齢化に伴い、現代医療はますます高度化・複雑化してきていると感じます。そのような時代の変化に合わせた、新たな医療の基盤として、チーム医療が重要視されています。チーム医療は、医療者間、患者-医療者間での信頼関係がないと成り立ちません。そこで私は、高い専門性と協調性、責任感を持ち合わせた、患者からも医療者からも信頼してもらえるような薬剤師になりたいです。



岡山県出身
総合政策学部1年

イスラム世界と日本をつなぐ架け橋になりたい。

Q 慶應義塾の良いところは？

福澤先生の想いのもとで、全世界を視野に入れて学びを深めることができる場所です。SFCでも、イスラム教徒以外にもたくさんの考え方や生活環境の違う学生がたくさん在籍していて、毎日が刺激的です。そのような人々と意見交換が自由にできるのも慶應義塾大学の大きな強みであると感じています。

Q 今後、学校生活でチャレンジしたいことは？

東京オリンピックに向けて、学生として、日本のイスラム教徒として、外国人と交流したいと思っています。イスラム教徒が暮らしやすい東京・日本にできるようなアクションを起こし、「日本にまた来たい」と思ってくれるイスラム教徒が一人でも増えてくれたらと思っています。



北海道出身
法学部3年

社会の要請に応え、時代に合致した憲法学者像を模索していきたい。

Q 一番興味のある授業は？

「憲法演習」です。参議院法制局で立法事務の第一線に立って活躍されている先生が担当されており、政治にまつわる「参加」をテーマに、受講者も積極的に意見を述べながら密度の濃い講義が展開されています。毎回の授業で、先生はもちろん院生の方の発言などからもとても刺激を受けております。

Q 慶應義塾の良いところは？

維持会奨学金が示しているように、OB・在学生を問わず一つの社中に属する者として一致団結しているところだと思います。一つのチームとしてお互いに手を携えていけるのが義塾の最大の魅力ではないかと思っています。

Q 卒業後の進路、将来の夢は？

大学院法学研究科に進学し、憲法学者になることです。現在、憲法を取り巻く環境は急激に変化していますが、社会の要請に応じて確たる知見を提供できるような、時代に合致した憲法学者像を模索していきたいと考えております。



カナダ出身
環境情報学部2年

医療科学の分野で社会に貢献したい。

Q 維持会奨学生として思うことは？

維持会の皆様をはじめとして様々な人に支えられながら慶應義塾大学で勉強を続けられる環境を考えると、いつも身が引き締まる思いです。授業はもちろんのこと、普段の生活の中でも学び成長できるように、謙虚さと積極性を常に持っていたいです。

Q 一番興味のある授業は？

人体の構造を学ぶ授業や、心理学がとても面白いです。昔から人間に関心があり、心も体も学べば学ぶほど奥の深さを実感しています。進化をしながら築いてきた人の体の仕組みや、社会の様々なところで応用されている心理学は、私たちの当たり前を読み解くある意味身近でとても興味深い勉強だと思います。

Q 慶應義塾の良いところは？

多様性と専門性、伝統と革新が混在していて、教員も学生も実績、夢や目標を高く持つ人が多い気がします。リソースやサポートも含めて、「学ぶ」ための場所として最適な場所だと思います。「半学半教」のような、他者とともに高め合う考え方が体現されている結果だと思っています。

維持会奨学生採用実績

維持会奨学金

経済的理由により修学が困難な塾生を援助するため、2007年に創設しました。全国の優秀な学生に慶應義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。毎年、厳正な審査の下、人物、学業・成績ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

※「維持会奨学金」は給付型で返済の必要はありません。

2017年度

文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部 から 72名・各50万円

医・理工・看護医療・薬学部 から 47名・各80万円

維持会員の皆様が奨学生を支えてくださっています

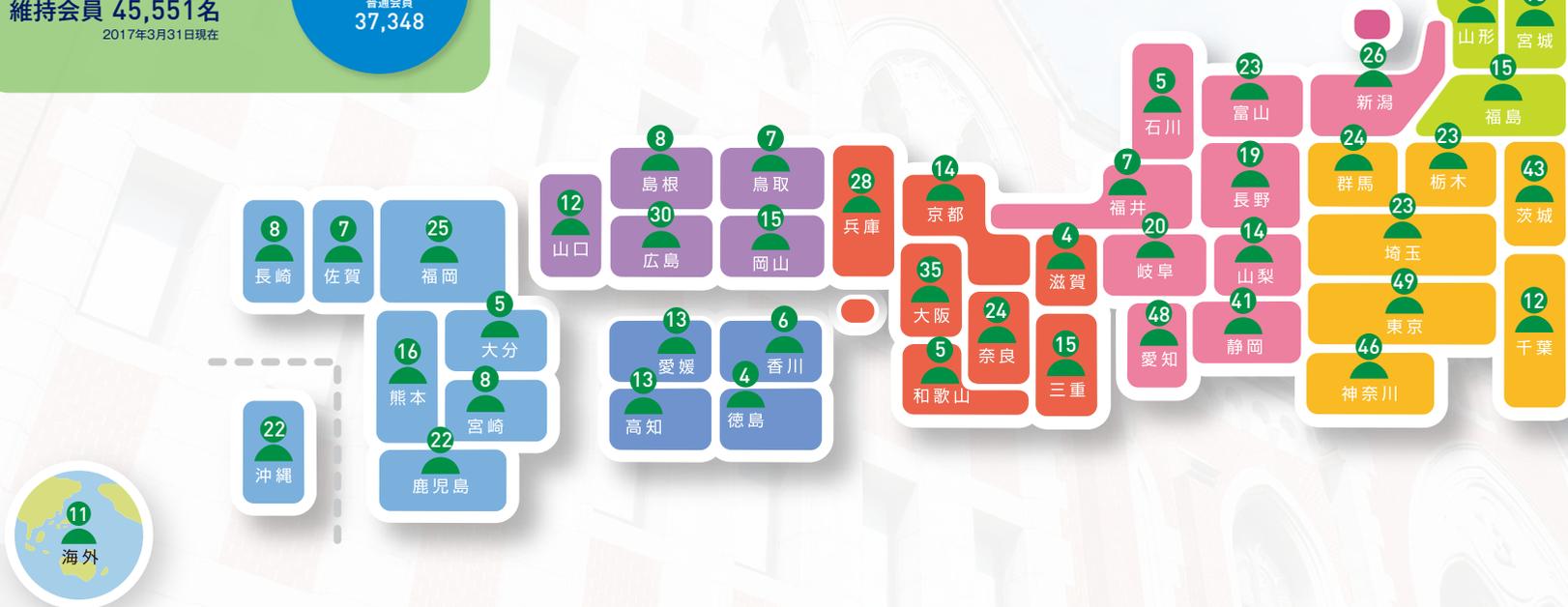
維持会員 45,551名
2017年3月31日現在



全国の優秀な塾生が採用されています

2007年度～2017年度まで

876名採用



2016年度 慶應義塾維持会 収支決算

(単位: 円)

収入の部	寄付金	199,141,966
	維持会基金運用収入	74,487,840
	(1) 収入の部合計	273,629,806
支出の部	維持会事業費	奨学支援事業 67,500,000
		その他の財政支援事業 4,487,840
	管理経費	会員用三田評論諸経費 16,089,121
		事務経費 15,424,400
	(2) 支出の部合計	103,501,361
収支差額(1)-(2)		170,128,445
(3) 年度末維持会基金残高		3,894,520,471

(2017.3.31付)

(1) 収入の部

新規入会640件、継続6,590件、計7,230件の寄付金と維持会基金運用収入により273,629,806円となりました。

(2) 支出の部

奨学支援事業:「慶應義塾維持会奨学金」に67,500,000円を充当しました。

その他の支援事業:キャンパス施設整備資金・「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金として4,487,840円を助成しました。

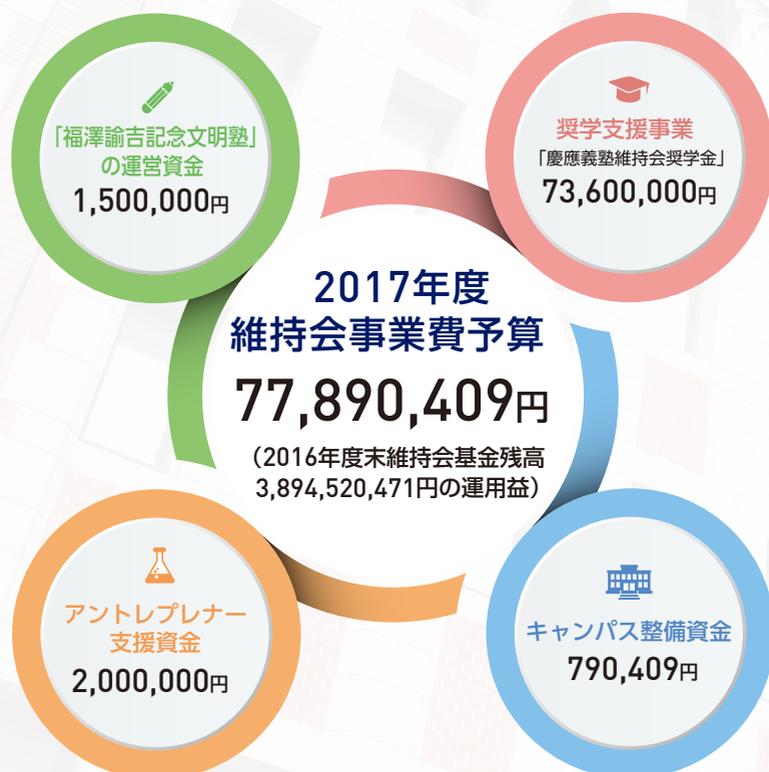
管理経費:会員への『三田評論』発送郵便料等、維持会勧誘に伴う趣意書等作成費・DM発送郵便料等31,513,521円を支出しました。

(3) 維持会基金残高

収支差額を全額維持会基金に組み入れた結果、残高は3,894,520,471円となりました。

昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財政基盤を強化します。

2017年度の維持会事業についてお知らせいたします。



■ 奨学支援事業「慶應義塾維持会奨学金」

408名の応募があり、計119名の塾生に支給することが決定しました。

《2016年度実績》67,500,000円 353名の応募があり、計112名の塾生に支給しました。

■ キャンパス施設整備資金

塾生の教育・課外活動等における環境を一層充実させるための施設整備に対し、維持会からこの資金を助成します。

《2016年度実績》2,987,840円

大学キャンパス(三田)第1校舎南側中庭掲示板改修工事費を助成しました。

■ 「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金

慶應義塾の原点を見つめ未来貢献を志す先導者を育てるべく創立150年記念事業の一環として開講されました。維持会からこの資金を助成します。

《2016年度実績》1,500,000円 助成しました。

■ アントレプレナー支援資金

慶應義塾の知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業1社につき最大100万円の出資を行います。

《2016年度実績》0円 該当がありませんでした。

維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部抜粋しております。)

2017年度

維持会Webサイトでは、奨学生全員の感謝のメッセージを掲載しています。

奨学金という形で頂いた応援を無駄にはしません。

この度は、慶應義塾維持会奨学金への採用、本当にありがとうございます。深い感謝を感じるとともに、奨学金という形で頂いた応援を無駄にしないよう、学生生活を有意義に過ごそうと改めて決意しました。

入学して数か月が経過した今感じるのは、自分がいかに恵まれた環境で育ち、そして今、いかに恵まれた場所にいるかということです。慶應義塾大学には、素晴らしい先生方、エネルギーに満ちた学生、さまざまなことに挑戦できる環境が揃っています。そこで学び、学生生活を送れることは、本当にありがたいことだと深く感じます。

そうした感謝の中で抱いたのは、恩返しをしたいという思いです。素晴らしい環境を与えられる慶應義塾、一心に応援してくれる家族、そして私を生かしてくれる社会に対し、なにかを返し、貢献したいと考えます。今は未熟で、大きなことを成し遂げることは難しいかもしれませんが、しかし、与えられた環境を無駄にしないよう一生懸命に学生生活を送ることそのものが、今できる私なりの恩返しなのだと思うようになりました。ひとつひとつの授業からたくさんものを吸収し、積極的に学習すること。また、出会いを大切に、今しかできない挑戦をすること。そういった、当たり前ともいえることを真摯に実行することが、今の私の目標です。

今回、維持会の皆様から頂いた応援と期待に少しでも応え、なにかを返すことができるよう、これからますます気を引き締めて学生生活を送ろうと思います。本当にありがとうございました。

京都府出身 法学部1年

地方創生の現場におけるリーダーに。

私には将来かなえたい目標があります。それは、「全社会的な先導者たらん」という福澤先生のお言葉にあるよう、社会において、特に地方創生の現場におけるリーダーとして働くことです。昨年の4月に上京して以来、義塾での大学生活は非常に充実したものでしたが、地元を離れたことで改めてその魅力に気づいたと同時に、私自身が先導者になることで、その街をより活気あふれる国際的な街にしていきたいと強く思うようになりました。地方創生の現場といってもそれは総合商社や観光業などの企業や、地方自治体などさまざまです。しかし、目標を達成するためにはどの現場においても、世界に情報を発信するアピール力と語学力が必要と考えます。これらの能力を得るために、第二学年においては、マーケティングや国際関係論の授業を積極的に履修し、英語と第二外国語である中国語の授業で語学力を伸ばしていきます。維持会奨学金がたくさんの人たちの支援によって成り立っていることを常に心に留め、日々努力してまいります。

北海道出身 商学部2年

維持会の皆様に恩返しができるよう日々精進してまいります。

私は将来、医療用高分子の生体適合性を向上させる研究に携わりたいと考えています。人工臓器や人工関節など人体に直接触れる物質の生体適合性を高めることは患者さんの体への負担を減らし、多くの人の役に立つことができると信じています。夢の実現に向け、私は二年生での学科分けで応用化学科へ進み高分子化合物の合成について学んでいきたいと考えています。一年次の間では、希望する応用化学科に進めるような成績をとることができるように、日々の授業の予習復習をしっかりと行うと共に、研究者として必要となるプレゼンテーションのスキルを総合教育セミナーで学んでいます。

また、勉強だけでなくサークル活動などにも積極的に参加し、多くの人と交流を持ちたいと考えています。慶應義塾大学に入学し、強く感じたのは周りの友人たちのレベルの高さです。学びに対して意欲的な人が多く、私ももっと頑張ろうという気持ちになります。優秀な友人たちと大学生活を送ることができる恵まれた慶應義塾大学の環境の中で成長し、いつか維持会の皆様に恩返しができるよう日々精進してまいりたいと思います。

神奈川県出身 理工学部1年

青年海外協力隊で活動した経験から看護師を目指しています。

この度は、慶應義塾維持会奨学金の奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。

私は一度大学を卒業し過去六年間を社会人として経験を積んできました。直近では青年海外協力隊としてパプアニューギニア国で二年間活動し、その時の経験が契機となり看護師へのキャリア変更を決意しました。私のメンターである女性看護師より借金を抱えてでも慶應義塾大学看護医療学部は絶対に行く価値のある学校であるという助言をもらい、二年次編入試験を受け入学を果たしました。現在は、単独で生計を立てており、これまでの貯蓄より学費や生活費を捻出しております。今年の四月より三年生に進級したのですが、授業の過密スケジュールによりアルバイトが殆ど出来ない状態が続いているため、奨学金に頼ることを主として学業を全うしようと考えました。

現在、毎日早朝から夜まで勉強に勤んでおります。ただ単位を取得することを目標にしていくのではなく、好成绩を全ての科目で取得したいと考えているため、勉強にも熱が入っています。次の春季休暇中にクラスメートとパレスチナ自治区で保健活動のフィールドワークを行う予定であり、その準備としてアラビア語を学んでいます。新しい言語を一から学ぶことは大変な苦勞ではありますが、同時に新しいことを学ぶ楽しさも感じております。

貴会の奨学生として恥無いよう、かつ他学生の模範となるよう今後も勉学に努めてまいります。

福岡県出身 看護医療学部3年



慶應義塾維持会

Newsletter

No.10

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL.03-5427-1545(平日9:00~17:00)
FAX.03-5427-1546
E-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp
<http://www.kikin.keio.ac.jp/ijikai/>

発行日 2017年9月15日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当

●ご意見・ご感想をお寄せください。